

平成 28 年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

## 「第 1 回中堅職員研修」

平成28年6月24日(金) 会場名:青森県総合社会教育センター 第1研修室

生涯学習・社会教育関係職員研修講座「第1回中堅職員研修」が、6月24日(金)当センターにおいて受講者18名で実施されました。午前は秋田大学大学院 教育学研究科 教授 原 義彦 氏による講義と、午後は原教授助言のもと、「未来のまちをコーディネート」というテーマでグループによるワークショップを行いました。

### 1. 講義:「これからの社会教育の動向と生涯学習・社会教育関係職員の果たす役割」

社会教育・生涯学習政策の変遷から、『ネットワーク型行政の推進による社会教育行政の再構築』をキーワードとして御講義いただきました。人づくりと地域づくりは両輪で成り立っていることや、社会教育行政も一般行政も目標は同じ「コミュニティ形成と地域づくり」であることをとてもわかりやすくお話いただきました。

また、課題があつてこそその連携・協働でなければならないという「ねらい(目標)を定める」ことの重要性を強調してお話され、受講者の誰もがうなずき納得しながら聞き入っていました。

【講義の様子①】



【講義の様子②】



#### 【概要】

- ネットワーク型行政の推進による社会教育行政の再構築(再構築ということは、これまで通りではいけない)
  - ・「人づくり」…… 自立した人材の育成
  - ・「地域づくり」… 協働による課題解決、地域活性化
- これからの社会教育…人材育成と地域づくり支援に向けた取り組み
  - ・多様な主体と連携する ~ 一般行政の目標も同じ(コミュニティ形成、地域づくり)
  - ・違いを明確にする ~ 社会教育行政は、学習支援機能(教育=人材育成)を持っている
- 社会教育行政の視点
  - ・課題を明確にする      ・大局的な視点を持つ      ・行政の枠を越えて連携・協働する
- 何のために連携・協働するのか
  - 課題があつてこそその連携・協働
  - ①ねらい(目的)を定める
  - ②ねらい達成のために何が必要か … 知恵を絞る
  - ③戦略を練る … 状況を見て、臨機応変に行動する

## 2. ワークショップ：「未来のまちをコーディネート」（グループワーク）

ワークショップを進めるにあたり、**原教授**にコンセプトと進め方を示していただきました。課題は『地域の課題解決や地域の活性化を図るため、社会教育（行政）は地域のどのような**主体**と連携・協働していくとよいかを考えましょう。』です。ここでいう**主体**とは、連携・協働する相手のことで、首長部局の部課や施設（行政、民間）、さらには各種団体や組織、企業の他、個人を含む“一緒にできる”パートナーを指します。

グループごとに課題に対する「ねらい＝〇〇するために」を決め、「どの主体と連携・協働して」「何をするのか」を付箋や模造紙をつかって話し合いながら資料を作り、発表し合いました。

共通の地域課題を洗い出すのに多少苦労はしたようですが、ねらいが定まると「〇〇と連携・協働して△△する！」というアイデアがどんどん湧き出して、楽しいトークとともに資料作りも盛り上がりました。

グループの発表後には、**原教授**から講評を頂きました

【演習の様子（グループワーク）】



【演習の様子（グループ発表）】



最後に、**原教授**の総括で、連携・協働においては「自分の＋（プラス）面と－（マイナス）面」と「相手の＋面と－面」を組み合わせることで結果的に「お互いが＋、＋」の関係になること（＝**SWOT分析**）を目指し、それが「人づくり」や「地域づくり」につながるといってお話を頂きました。

## 3. 受講者の感想

- ・社会教育の現状がわかった。これからの仕事に生かしていきたい。
- ・専門的識見から、生涯学習・社会教育の連携の深さを痛感した。
- ・縦割り行政ではなかなか連携が進まないと感じていましたが、上手く連携できればと感じています。
- ・講座は説明、資料ともにわかりやすかったです。ワークショップは少人数ながら和気あいあいとでき楽しかったです。
- ・少し課題が見えてきたようです。参考となりました。

## 【講師紹介】



原 義彦 氏（秋田大学大学院 教育学研究科 教授）

筑波大学大学院単位取得修了。これまで文部科学省生涯学習政策局生涯学習調査官、中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員等を務める。日本生涯教育学会理事。専門は生涯学習学、社会教育学。

- 1995年 宮崎大学生涯学習教育研究センター講師、助教授
- 2004年 秋田大学教育文化学部助教授
- 2016年 秋田大学大学院教育学研究科教授